

項番	質問	回答
1	研究データの主担当部署は、最終的？には、図書館、研究支援部局、情報基盤系のどこがなるのが理想でしょうか？	（名古屋大・田中）本学の場合は中心となっているのは情報基盤系。ただ、本学はまず、各ステークホルダー部署のトップ層の間で「やらなければならない」というコンセンサスを取った上で実務担当者に話を下ろすというよう に段階を踏んでいることが強みとなり、各部署がある程度主体的に関わっていこ うという意識は持っている状態だと思う。 （九州大・芦北）本学の場合は中々まとまらなかったので新しい組織を作って対応することになった（=RDMコーディネーター的な役職を新たに設けることになった）。強いリーダーシップを発揮する教員がどの部署の所属かによって変わってくるのではないか。 （帯広畜産大・佐藤）本学においても研究データ管理支援を進めようという流れにはなっているが、専任の人を入れるという流れにはなっていない。研究データ管理支援にも様々な業務がある。データの公開は図書館の方で尽力をするが、各業務のなかで得意分野を活かすことになると思う。各部署から教職員が集まってドリームチームを作るのが理想なのではないか。
2	NII・古川先生に質問です。標準スキルの英語版があればというニーズが寄せられたことはないでしょうか？ 海外出身のRDM支援人材が参照したり、田中先生のスライド10頁のようなガイダンスで外国人研究者に説明する際に活用したりできるかもしれません。（データポリシーを含め、RDM関係資料の二言語化は今後の課題になり得るかもしれません）	（NII・古川）英語版へのニーズについては現在までのところ寄せられたことはないが、重要なご提案だと思う。確かに翻訳は難しく、バージョン管理も課題になり得ると思うが、将来的には少なくとも英語翻訳はした方がより広く使って頂けるものになると思う。 海外の取り組みを見ても、ここまで詳細なスキルはあまり例が無いので、海外に日本の事例として紹介する意味でも英語対応は重要だと考えている。
3	国立大学以外の大学では、研究データについては具体的にどうする必要があるのか理解が不足していることが多い中で、音頭を取ったら（人事支援も無しに）丸投げされることを恐れてしまうところがあります。研究データ関連の取り組みについての周知が国公立の経営者側になされ、学内プロジェクトとして取り組むことを推奨するものになることを期待しています。そのような予定はありますか。	（名古屋大・田中）上層部の人が意識をもって下に伝えていくという体制が出来るのが理想的だと思う。 （京都大・天野）研究データ管理については海外の方が先行している。海外の研究者や研究グループと共同研究をするような研究大学においては、助成金の共同申請や、研究データ管理ポリシーと紐付いた資金を持った研究者が移籍してくることなどがあり得る。そういった時に、大学にポリシー・インフラ・体制が整っていないと問題が発生する。研究を進めたい大学にあっては、政策に依らず、研究者に言われる前に内部の体制を検討するのが良いのではないか。 （帯広畜産大・佐藤）本学の場合、口火を切ったのは図書館だったが、察知されている先生方も多かった。察知されていなかったとしても、ご説明を差し上げれば意識の統一は出来るのではないか。
4	昨年度スキル表を職場の人達に紹介したのですが、業務やスキルの書き方が難しいとかどういことを言っているのかわからないという感想や意見がありました。研究データ管理に造詣の深い人でないと理解に苦しいスキル表になってしまっているように思います。私の職場が特別理解できない職場なのかもしれませんが、もう少しわかりやすいスキル表も作成していただけると嬉しいとおもいます。よろしくお願い致します。	（筑波大・高久）スキル表全体については、かなりのリソースをつぎ込んだこともあり、やや分かりにくくなっているのかもしれない。一方で、このスキル表を自機関用に切り取ってカスタマイズする。あるいは個別の部署を説得するために関連する業務の箇所を切り取って用いるという活用があり得ると思う。「分かりやすい文言・書き方」などについては今後のバージョンアップで対応していきたい。